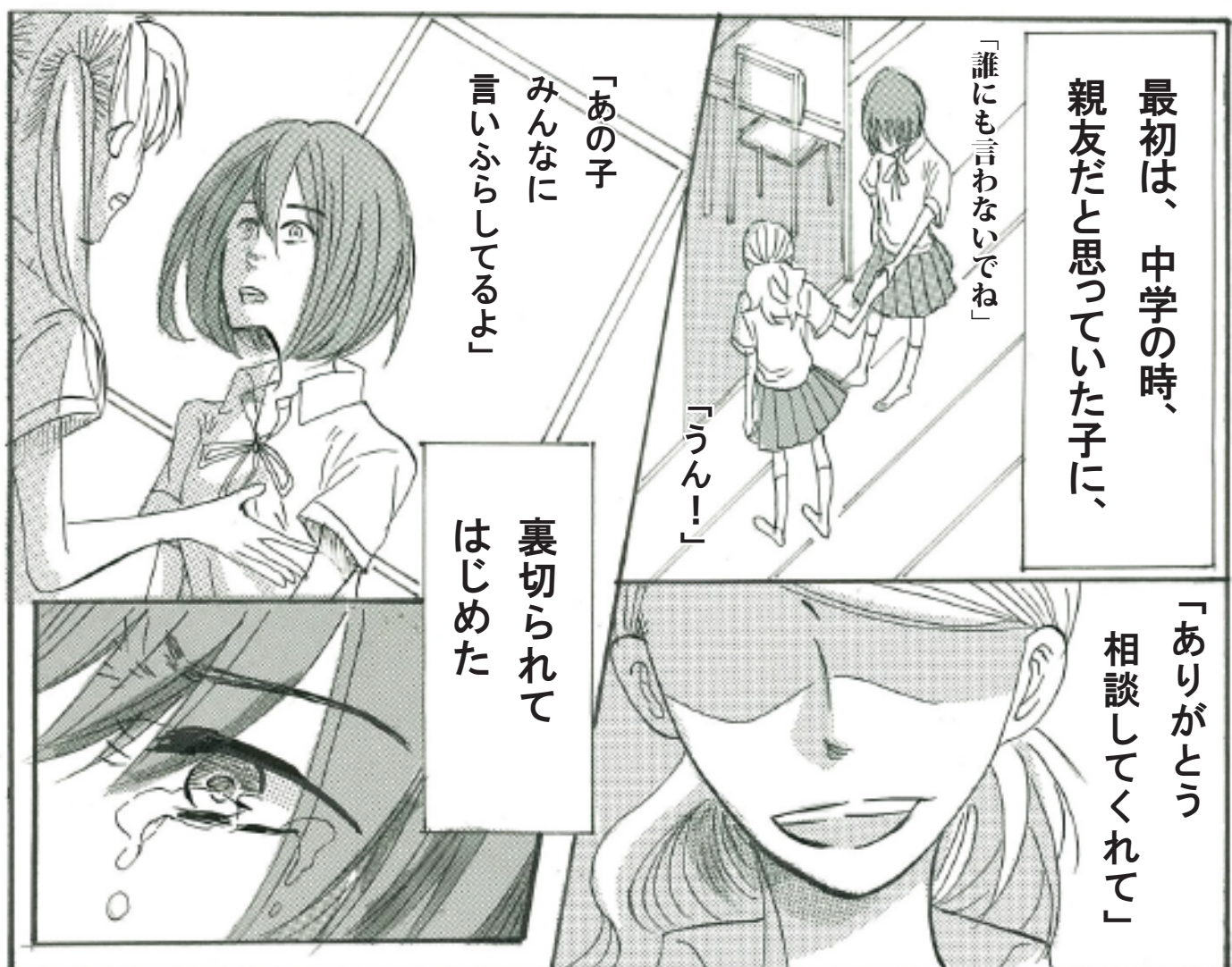




「痛い」と
叫べない代わりに

手首を
毎日のように
切っていた。



最初は、中学の時、
親友だと思っていた子に、

「誰にも言わないでね」

「うん！」

「ありがとう
相談してくれて」

「あの子
みんなに
言いふらしてるよ」

裏切られて
はじめた



それから
2年引きこもり

高校に入って、優しい
友人は出来たけど

誰も信じられなく
なっていた。



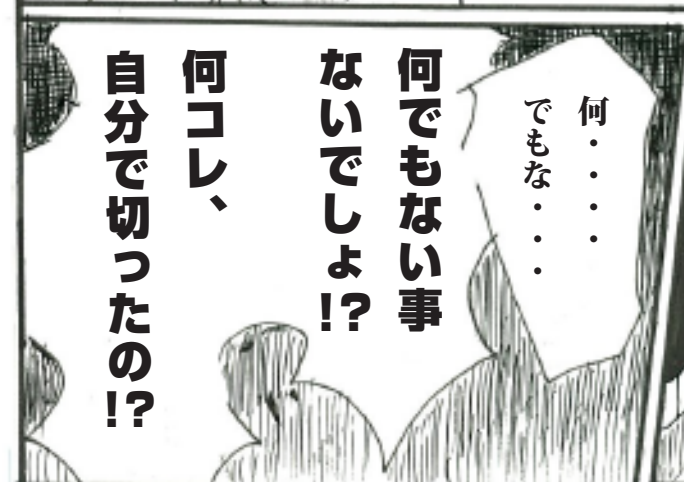
高校3年の
秋

あんた
何コレ



う………あ

ひた隠しに
していたのに、母に
とうとうバレた。



何……
でもな……

何でもない事
ないでしょ!?

何コレ、
自分で切ったの!?





見せな
さいっ!!

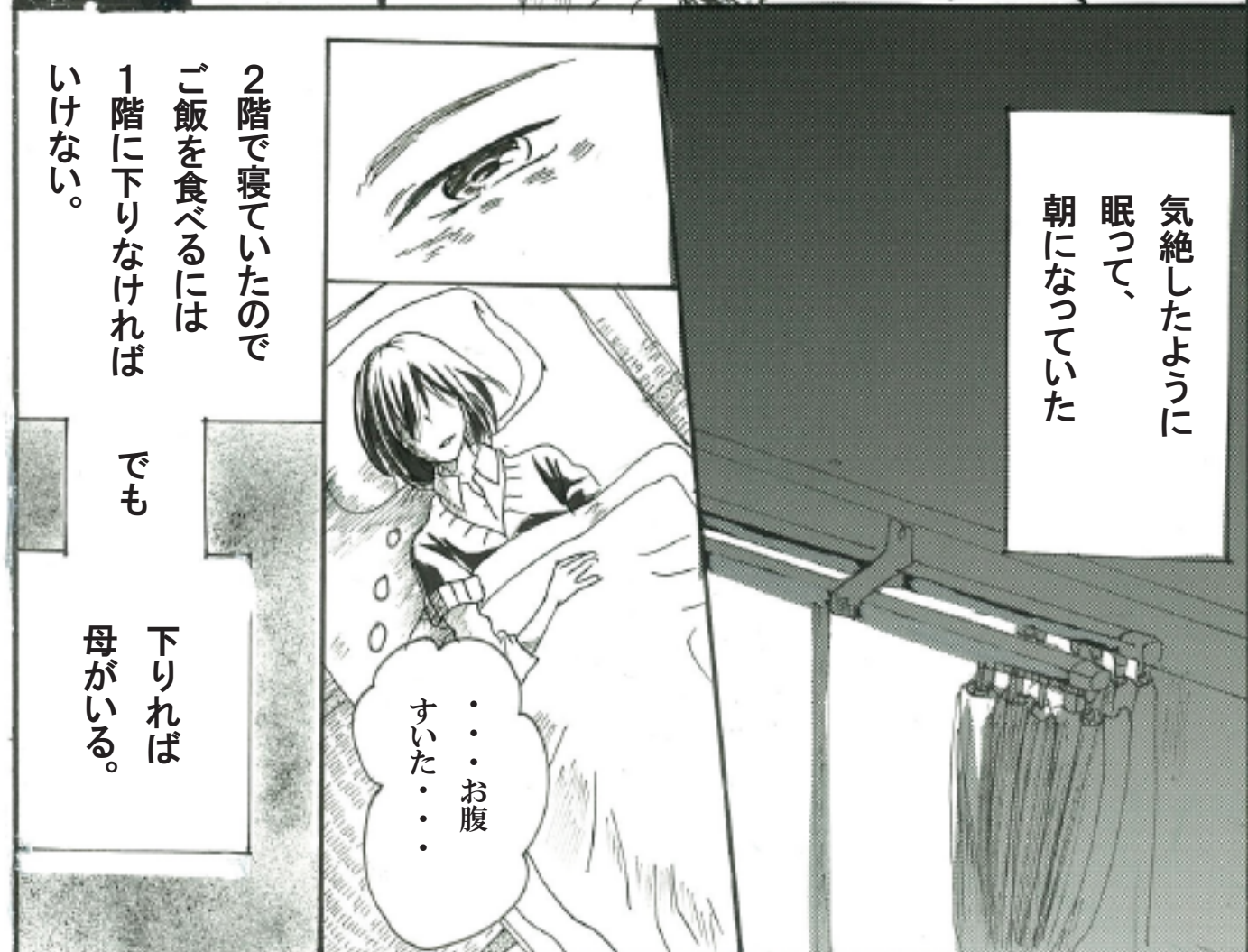
やだあっ!!

っや

あんなに
泣き叫んだのは
初めてだった。

いやああ

嫌あああ!!!



気絶したように
眠って、
朝になっていた

・・・お腹
すいた・・・

2階で寝ていたので
ご飯を食べるには
1階に下りなければ
いけない。

でも

下りれば
母がいる。

どうせ責められるんだ、

親から貰った体に、

とか

バカな事してとか

そんな月並みな
言葉で

……でも

切りながら
「痛い」って、

「心が痛い
誰か助けて」って
いつもいつも
思っていたのに

——気付いて
くれなかったのは
そっちじゃないか

カッ



おはよう



・・・おはよう



・・・いつから
やってたの？

どの位

やったの？

・・・3年

くらい前

・・・分からない



・・・こんな
馬鹿な事して・・・

・・・ああ
やっぱり

・・・あんたみたいに



母の態度は
いつも通りだった

昨日は
ゴメンなさい

明るくて能天気で、
いつも笑っているような、

私と正反対な
人には分からないよ

聞いただけムダだ。
早く終われ

早く……

母は泣きながら
言った

……っゴメンね……



気付いて
あげられなくて
ゴメンね……っ



気付いて
くれなくても、

分かってくれなくても、

ゴメンなさい……っ

……
……なさ……

